◀ 練習の様子 ▶

▲地獄まつりでの熊舞（登別中学校）

▲熊舞の会による公演

土産物店や飲食店で働いていて、ボランティアで活動していますから、『自然体で行こう』をモットーに、息切れしないよう活動を続け、熊舞を伝えていきたいですね」

登別温泉中学校の伝統を引き継いでいきたい

「登別温泉中学校に入学したとき、先輩に、『熊舞は伝統ある郷土芸能なんだから、半端な気持ちで練習してはダメだ！』と気合いをかけられました。だから、登別温泉中学校が登別中学校に統合されると決まったときは、熊舞が出来なくなったら寂しくなるなあと、思いました。でも、登別中学校は登別温泉中学校の伝統を引き継ぎ、『地獄まつり』への参加も決まり、安心しました」と話すのは、昨年の『地獄まつり』の熊舞で狩人を演じた登別中学校3年の平塚大祐（ひらつかだいすけ）くん（元登別温泉中学校）。

平塚　大祐くん

「新しい友だちと、熊牧場のボス熊の動きなどを話したりして練習したのは楽しかったです。登別中学校の生徒は、初めての経験なのに、練習を始めたらすぐにぼくたちのレベルに追いついてきました。『地獄まつり』の本番に向け、皆が協力し、一生懸命頑張り、本番は大成功でした」と熊舞に対する思いや、熊舞を通して登別中学校の友だちと仲良くなれたことを話してくれました。

熊舞の熊役に挑戦して

「小学生の時に、熊舞を見て、ぼくも熊をやりたいと思いました」と話すのは、昨年の『地獄まつり』の熊舞で熊を演じた登別中学校3年の堀本孝尚（ほりもとたかなお）くん。

堀本　孝尚くん

「総合学習として、地獄まつりに全校生徒で参加し、3年生は郷土芸能『熊舞』に挑戦することになりました。ぼくは、熊の役を希望し熊舞の会の皆さんの指導のもと練習に取り組みました。熊は、足首までが縫いぐるみにすっぽり覆われているので、歩くだけでも大変でした。演技は、2人で熊一頭という形なので、最初はパートナーとのタイミングが合わなく転んでしまったりして、少し揉めたりもしました。でも、練習を重ねていくうちにコミュニケーションがとれ、呼吸が合うようになり、『地獄まつり』本番では満足いく演技をすることが出来て、良い思い出になりました。後輩たちには、これからも熊舞を続けてほしいですね」と熊役を演じた感想などを話してくれました。

取材を終えて

現在、熊舞の会の会員数は18人。転勤や旅館の閉鎖などで以前より少なくなっているそうです。しかし、郷土芸能やまつりを通して、まちおこしに取り組んでいる方たちとの横のつながりが増えてきていると言います。これは、喜ばしいことだと思います。市民の間にも郷土芸能を愛する気持ちが強まれば、熊舞もひとりでに観光客に知られるようになるでしょう。

2人の中学生の熊舞に対する思いを聞き、このような体験から郷土を愛する気持ちが自然に培われていくのかと感じました。彼らの生き生きとした話を聞いていると、登別観光協会が望んでいる映画『007』シリーズのロケで、登別中学校の生徒が熊舞の扮装で悪者に戦いを挑み、地獄谷の噴煙の中から美しいヒロインを救い出すなんてシーン（原作にはないが）を想像して、楽しくなりました。

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成17年度市民リポーターについてのお申し込み・お問い合わせは情報推進課（広報広聴）（☎85-6586）まで。